



小屋瀬さんさ踊り保存会とナニヤドドラ葛巻愛好会が踊りを披露しました。塾生も葛巻の盆踊りに挑戦。



「ことばの世界」について語る谷村新司さん

くずまきに遊び、くずまきに学ぶ

第1回 日本再発見塾

俳人の黛まどかさんら各界で活躍する第一人者が8月20日、21日の両日、本町の旧葛巻小江刈川分校を主会場に日本再発見塾を開きました。「全国各地で、地方を見直すことから元気な日本を再生させよう」と呼び掛ける「プロジェクトええじゃないか」の記念すべき1回目。地元の達人も参加し、交流を深めながら、葛巻の自然や文化を発信していました。

地域の個性や文化を大切に

師範役で来町したのは、音楽家の谷村新司さん、日本画家の千住博さん、スポーツジャーナリストの増田明美さん、作家の塩野米松さんら八人。また、地元葛巻から昔話の語り部として近藤清助さん（新町・88）と木下伝次郎さん（新町・82）、牛方の経験をもつ橋尻

日本再発見塾は、上外川の「森と風のがっこう」からスタートしました。開講式には増田寛也県知事も駆けつけ、岩手での開催を歓迎しました。

黛さんは「自分の住む地域を知り、プライドを持つ。そういう人たちが各地に増えていけば日本ももっとよくなると思う。周りを知るとともに、もっと地域に目を向けてみよう」と呼び掛けていました。

塾生は二日間、著名な講師から直接指導を受け、感激していました。膝を交えながらの夜学は四コースに分かれ、時代とともに変わってきているその土地の暮らしや生活の知恵などを大切にしなければとの思いを新たにしました。高知県や島根県など遠方からの参加者もいて、地域の文化や伝統の違いを感じていました。

孝悦さん（小田・80）、葛巻さんさ踊りの名手、澤村憲治さん（城内小路・80）、移動製材業の廻立美代治さん（田の沢・75）が達人として授業に参加しました。



ストレッチ体操も指導した増田明美さん⑤。雨が降り出し、途中から講堂での授業。黛さんとは大の仲良し。楽しいウラ話で盛り上がりました。



平庭高原での吟行。フォレストボードにも参加しました。